



校長室の窓

平成29年5月15日

萩市立福栄小中学校

発行：柳林 浩一

やまでら さんもんけいがく ことば まな

ある山寺の山門掲額の言葉から学ぶ

平成29年度がスタートして、約1か月ちょっと経ったところです。新しい学年の生活にも慣れてきたところではないかと思ひます。さて、皆さんの中にはこの「慣れ」が「だれ」に変わってしまっている人はいないでしょうか。

少しさかのぼってみると、皆さんは今年の正月を迎えた時に、自分の心の中に「新年の決意」をしたはずでず。「今年はこのことに頑張る自分になりたい」「今年こそはこんなことができるようになりたい」と自分が立てた新年の決意を覚えていますか。そして、4月10日の入学式・始業式の日を思い出してください。「〇年生になったので、〇〇を頑張るぞ」「□年生になったので、下級生の手本になるような行動をとりたい」という目標をそれぞれ立てたのではないのでしょうか。

自分の心の中に決意すること、自分なりの目標を立てることとは、決して難しい事ではありません。大切なことは、その決意や目標が自分の中でどのように生き続けているかということです。ある山深い場所にあるお寺の山門に掲げられている額の中の言葉をもとに、今の自分をふり返ってみてください。



だれ りつ ば こころ も
 誰でも立派な心がけを持つことがある

しかし、まもなく忘れてしまうことが多い

いつしゆん かんげき ふる
 一瞬の感激で奮いたつこともある

でも、それを長く続ける人は少ない

かがや せい か くる にんたい
 輝かしい成果のうちには、苦しい忍耐がある

あれだけの忍耐があるならば

あなたにも輝かしい成果があるはずだ

ひと のうりよく ほど さ
 人の能力は、それ程差のあるものではない

だから、なるならぬは

その努力と忍耐を続けるかどうかにかにある

「しかし、まもなく忘れてしまうことが多い」「でも、それを長く続ける人は少ない」そんな自分になってはいませんか。最後に額の中の言葉は、次のように締めくくられています。「なるならぬは その努力と忍耐を続けるかどうかにかにある」

ひたむきにこつこつと心をこめて物事に取り組む福栄小中学校の児童生徒であってほしいと思ひます。その取り組む姿や心が美しいのです。